



ツグミ

【スズメ目ヒタキ科】

全長 24 cm の冬鳥です。秋に群れで渡ってきます。冬は広く開けた公園の草地などで良く見かけます。観察していると、ちょっと歩いては立ち止まり、またちょっと歩いては立ち止まる「だるまさんがころんだ」のようなエサを探す行動をみせます。



アカハラ

【スズメ目ヒタキ科】

全長 24 cm の冬鳥で、大きさも体型もツグミに似ています。公園や防風林などの林縁で見かけることが多く、特に冬季は木の実を探している姿を見かけます。浦安で冬季に観察できるものは、頭部が黒い亜種のオオアカハラだと考えられます。



シロハラ

【スズメ目ヒタキ科】

全長 24 cm の冬鳥で名前の通り腹面が白いことが特徴です。大きさも体型もツグミに似ています。本来は西日本で越冬することが多い本種ですが、浦安でもたまに見かけます。アカハラと同じく公園や防風林などの林縁で見られることが多いです。



ヒバリ

【スズメ目ヒバリ科】

全長 17 cm で、春に空高くさえずりながら飛び回る姿をよく見かけます。石や杭の上でも、頭頂部の冠羽を立てながらさえずる姿も観察できます。開けた野原や畑に生息していますが、生息地の減少により近年数を減らしている野鳥です。



タヒバリ

【スズメ目セキレイ科】

全長 16 cm の冬鳥です。湿地や池などの水辺を好み、潮の引いた護岸や干潟でも見られます。飛び方や走り方はハクセキレイによく似ており、数羽の小さな群れでちょこちょこ歩きながらエサを探している姿をよく見かけます。



ハクセキレイ

【スズメ目セキレイ科】

スマートな体型で白黒の体と長い尾羽が特徴です。護岸や市街地など広く平らな場所で良く見られます。平地を歩きながら昆虫や底生生物などを食べます。ちょこちょこ歩き、時々立ち止まって長い尾羽を上下に振る愛らしい行動も見られます。



シジュウカラ

【スズメ目シジュウカラ科】

住宅地でもよく見かける留鳥です。胸から腹面に続くネクタイのような黒い線が特徴です。雌雄でこの模様の太さが違い、オスのほうが太く、メスは細い模様です。木の枝や幹の隙間、パイプの中など様々な場所に巣を作り、巣箱もよく利用します。



ジョウビタキ

【スズメ目ヒタキ科】

全長 14 cm の冬鳥です。翼に白い模様があることから着物の紋付きにたとえて紋付鳥と呼ばれることもあります。公園を始め、市街地でもよく見られます。木の枝や木杭、電柱にとまり、ピョコッとお辞儀した後細かく尾羽を震わせる行動をします。



ムクドリ

【スズメ目ムクドリ科】

都市部でも多く見られる全長 24 cm ほどの小型の鳥です。成鳥は黒色の体ですが、若鳥は全身の色が薄く、灰褐色をしています。地上を歩きながら餌となる昆虫を探し、穴に隠れている生き物も嘴を突っ込んで引きずり出して食べます。



ヒヨドリ

【スズメ目ヒヨドリ科】

全長 28 cm。全体的に灰褐色で頬が茶色いのが特徴です。日本全土で広く見られますが、季節によって群れで移動しながら生活します。花の蜜や果実を好み、都市部の緑地でもよく見られます。集団で「ピー、ピー」と大きな声で鳴きます。



モズ

【スズメ目モズ科】

全長 20 cm の肉食性の鳥です。先端が下に曲がった嘴を持ち、昆虫やトカゲ、小鳥などを捕食します。とらえた獲物を木の枝にさす「はやにえ」をすることで有名です。公園などの周囲を見渡せるような場所に止まっている姿をよく見かけます。



オナガ

【スズメ目カラス科】

全長 37 cm。頭部は黒く、風切り羽と尾羽が鮮やかな水色の鳥です。名前の通り尾が長く、翼は短く幅が広いのも特徴です。優雅な見た目と反して、鳴き声は「ギャーギャー」とだみ声です。小さな群れで行動する様子を良く見かけます。

浦安三番瀬
から見える



野鳥鑑子

街編

浦安市 三番瀬 環境観察館

浦安市 三番瀬環境観察館

〒279-0013
千葉県浦安市日の出7丁目9番1号
TEL・FAX 047-711-1601
☑sanbanze@city.urayasu.lg.jp



HP:<https://sanbanze.ces-net.jp/>

施設案内

開館時間 9:00-17:00

- 休館日
- ・月曜日（休日の場合は翌平日）
 - ・休日の翌日（日曜日及び土曜日の場合は翌平日）
 - ・12月29日から翌年の1月3日までの間

アクセス



浦安は都心のオアシス

浦安市は都心に近くほとんどが埋め立て地のため、自然が少ないと思われがちです。しかし、公園や緑道など緑地が多く、野鳥にとって重要な生息地となっています。



↑ムクドリは草刈り後に集団で飛来する姿がみられる。

池や水路には、水を求めて給水や水浴びしている姿を観察できます。また街路樹や庭・公園の樹木は隠れ家や休憩場所になるほか、虫や木の実などのエサを採ることもできます。

人々の生活のすぐとなりでも様々な野鳥たちに出会えます。ぜひ身近な野鳥観察をしてみてください。

観察のコツ①

早朝がおすすめ

野鳥を探す際はさえずりを頼りに探す事が多く、早朝は野鳥の活動が活発で、よく動きさえずります。また屋外も静かなため、野鳥観察がしやすいです。



逆に昼から夕方にかけては、野鳥のさえずりが少なく、木陰に隠れていることが多いので、観察しにくいです。

観察のコツ②

さえずりと地鳴き

繁殖期の野鳥は、自分のなわばりを宣言するためや、メスを呼び込むために鳴きます。これらを「さえずり」といい、特にスズメ目の鳥は複雑で美しい音色の鳴き方をします。



↑ヒバリは高く飛びながらさえずり回るのが特徴。

一方、繁殖期に関係なく、天敵の警戒など互いの連絡のために鳴く事を地鳴きといいます。鳴き方まで意識して観察してみると、鳥の行動の意味がより理解できるかもしれません。